

平成26年度第1回廃棄物減量等推進審議会議事録

日時：平成26年11月5日（水）13時30分

場所：多治見市役所5階第1会議室

出席委員：伊藤会長、加藤副会長、佐藤委員、土岐委員、坂崎委員、井深委員、安藤委員、山田委員、奥村委員

欠席委員：新山委員、中島委員

事務局：水野環境文化部長、岡田環境文化部次長、伊藤環境課長
市川課長代理、長谷川主査、原主査

議題

1. 平成25年度多治見市の環境・廃棄物の作成について
2. 平成26年度の重点的施策の取り組み状況と平成27年度に重点的に取り組む施策について
 - (1) 草木類リサイクルの実施報告について
 - (2) 生ごみ処理容器及び生ごみ処理機の普及について
3. 三の倉センター基幹改良工事について
4. 笠原クリーンセンターの埋立残余量調査の結果について
5. その他

1 開会挨拶

環境文化部長挨拶

2 議題

議題1

（平成25年度多治見市の環境・廃棄物の作成について、資料に基づき事務局より報告）

概要：「25年度 多治見市一般廃棄物処理実施計画」の実績報告として、平成25年度多治見市の環境・廃棄物を作成したため、その概要について報告した。

主な意見

・この冊子は、環境全般の報告書ではないか。

→この冊子は、一般廃棄物処理実施計画の実績報告として、作成されているものなので、廃棄物分野だけをまとめたもの。環境全般についての報告書（「多治見市の環境」）は、年内を目処に作成中。ホームページにも掲載予定。

・ホームページにも、廃棄物分野を抜粋したものである旨を掲載したらどうか。

→掲載するようにしたい。

・紙類の収集量が減少しているが、新聞を読まない人が増えてきたのか？ペーパーレス化が進んでいるのか？

→市内に24時間搬出可能な古紙回収ステーションが増えてきていることや新聞販売店での回収を利用される人も増えてきていると聞いている。もう少し時間をかけて調査していきたい。調査の結果は、審議会で報告する。

・燃やすごみの中に、紙類がいかに多いかという事を知らせる方法を検討したらどうか。

→検討する。

議題2

(平成26年度の重点的施策の取り組み状況と平成27年度に重点的に取り組む施策について、資料に基づき事務局より説明)

概要：平成26年度に実施予定の減量施策（5項目）の取り組み状況について、報告するもの。また、来年度も今年度と同様に取り組む予定としたい。

結論：提案のとおりで確認。来年度の施策については、次回の審議会で最終決定をする。

主な意見

①家庭の生ごみ堆肥化の取り組み誘導等の促進

・生ごみ処理機等の補助申請は、見積書等の提出が必要か？手続きが面倒ではないか？

→購入されて6か月以内に、申請書に領収書を添付して、申請していただく。見積書は不要。

・エコクッキングの参加者の反響はどうか？

→早い時期に定員に達するが、過去に受講した家族が、再度申し込む事が増えてきたため、来年度からは、初めての家族を優先して受付する方法に変更したい。

・広報紙でのPRとあるが、市役所の窓口を設置してPRした方がいいのではないか

②草木類のリサイクルのための環境整備

・草木類のリサイクルは、刈ったものを自分たちで持ち込むのか？

→南姫の場合は、地区で刈った草木を一カ所にまとめておいてもらっている。

・試験的に配布された堆肥の反響はどうか？

→好評をいただいている。姫地区は、公民館活動が活発で、地域で作った農作物を地域に配布する等の活動をされている。堆肥を活用してもらうことで、地域で循環するシステムのモデルになればと考えている。

モデル地区として、来年度も引き続き取り組みたい。

・学校の奉仕活動などで排出された草木を堆肥にして、学校の花壇に利用してはどうか？環境教育にもなるのではないか？自分たちのリサイクル活動が循環しているという実感が必要ではないか。

・事業者（企業）としての立場での感触はどうか？

・姫地区は、畑などをやっている人が多いため、個人的に配布するとなると、これくらいの量であれば、すぐなくなってしまうと思う。堆肥については、自然のもので作った堆肥であり、利用した方からは好評をいただいている。

個人のお宅への収集は、経費的にも難しい。大型車両（4～6 t）が入れる所にまとめてもらいたい。

・家庭から搬出されるものは、いろいろなものが混入されるなど、品質の問題もあるので、イベントなどの特定のもので取り組んでいってはどうか。

③総合環境学習の展開（エコカレッジの実施）

・応募状況はどのようなか？

→20名ぐらいの定員で、3コースで60名程の申込がある。今年度で2年目の事業のため、昨年の受講者が、コースを変えて申し込まれる方もある。来年度以降は、受講者にスタッフとして参加してもらえないかと思っている。

大人対象のコースについては、2月に予定されている環境フェア（まなびパークで実施）において閉講式を開催し、1年間のまとめをしていただく。ジュニアコースについては、1年間学んだ事を発表してもらおう予定。

来年度についても、引き続き実施していきたい。現在、来年度の内容について検討を始めたところ。

④プラスチック容器包装類の分別についての調査研究

⑤トレイ等の再資源化ルートの開拓に関する調査研究

・プラスチックを資源としてリサイクルするということか？

→容器包装リサイクル法に基づき、分別収集している自治体もあるが、多治見市は、法施行時に、23分別収集の見直しを含め、市民の方にどこまで分別してもらうかを検討し、（プラスチック容器の分別については、白色トレイと色柄発泡トレイ・発泡スチロールの分別のみとし、それ以外のものについては、）見送った経緯がある。

現在、白色トレイについては、容リ協ルートで再資源化しているが、発泡トレイや色柄トレイについては、独自のルートで再資源化しているので、より良い方法がないか、今後も継続的に調査研究していきたい。

議題 3

(三の倉センター基幹改良工事について、資料に基づき事務局より報告)

主な意見

・工事の主な内容に、コークス代替物（木材チップ）供給装置の新設とあるが、炭化装置を導入したということか？

→コークス代替物（木材チップ）を炉の中に落とすために、ホッパーまで運ぶ装置を新設した。木材チップは、ごみと一緒に炉の中で炭化される。

・炉の能力はどれくらいか？

→2炉あり、1炉あたり1日85t。1日170tの処理能力がある。

・コークスの価格は、現在値上がりしているのか？

→中国の北京オリンピックの直前は、高騰したが、現在は価格が下がってきている。処理費については、コークスの使用量が減り、木材チップを使用することにより、費用を抑えることが可能。チップは、建築廃材であり、コークスより安価である。

・木材チップは、企業から排出される産業廃棄物か？

→産業廃棄物である建築廃材をチップ化している企業から、購入している。

議題 4

(笠原クリーンセンターの埋立残余量調査の結果について、資料に基づき事務局より報告)

主な意見

・27年度末で受入を中止した後、既存処理場の解体、新しい管理施設の設置までは、そのままになるのか？

→市内で、処分場を2カ所運用するのは、無駄が多いので、大畑に集約したい。解体については、合併前に笠原町で使用していた焼却施設があり、いずれかの段階で解体する必要がある。

管理施設の新設については、受入れを中止しても、毎日施設を点検する必要があり、水処理施設の更新や既存施設解体後に、臨時に受入する際の計量場所などが必要であるため設置したい。

・安定型と管理型の違いについて

→有毒なものが混在されていない事が、判明していれば、安定型にそのまま埋め立てればいいが、火災等の場合には、その確認が困難なため、管理型に埋め立てる必要がある。笠原の管理型処分場の場合は、屋外の処分場のため、雨が降ったあとの排水についても、有害なものが混在していないか、検査をして、排水する必要がある。

今後、笠原の管理型処分場を増設する際は、このまま屋外の処分場で運用していくのか、大畑センターの管理型のように屋内にするのかも、検討していく必要がある。

その他

- ・リサイクルデパートの実施について

→10/16～19 まで実施 売上額 37 万円

家具や楽器類は入札。最高額 15,000 円

家電製品や自転車は扱わない。

- ・メッセ名古屋について

→多治見市の他、安城市、新城市、掛川市、飯田市の 5 市（中部環境先進 5 市）で合同出店。

各市の環境への取り組みを紹介。多治見市については、Re 食器とクールアイランドタイルを紹介。

- ・ごみ処理手数料の改訂について

→多治見市の場合は、4 年に 1 度全庁的に手数料等を見直すことになっており、昨年度の見直しの際に、この審議会でも検討いただいた。1 袋あたりのごみ処理費用は、増加しているが、市民 1 人 1 日あたりのごみ量は減っており、市民の努力に応える意味からも、値上げを見送った経緯がある。次回の見直し時には、この審議会でも検討いただきたい。

午後 15 時 00 分閉会